

平成27年9月10日（木）  
（公財）石川県埋蔵文化財センター  
担当：調査部国関係調査グループ  
伊藤雅文  
電話：076-229-4477

加賀市庄・西島遺跡、津波倉廃寺の発掘調査概要および  
現地説明会開催の案内について

石川県教育委員会が公益財団法人石川県埋蔵文化財センターに委託して発掘調査を進めている加賀市庄・西島遺跡、津波倉廃寺の調査概要について以下のとおり公表し、あわせて現地説明会を開催します。

## 1 所在地等

- (1) 調査地 加賀市津波倉町地内
- (2) 関係機関 国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所
- (3) 調査原因 国道8号改築（加賀拡幅）工事
- (4) 調査主体 石川県教育委員会  
調査担当：公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
- (5) 調査期間 平成27年5月～同年12月（予定）
- (6) 調査面積 6,300㎡（予定）

## 2 調査の概要

### (1) 概要

庄・西島遺跡、津波倉廃寺は、江沼盆地のほぼ中央に位置する古代の集落跡である。かつて周辺から和同開珎（わどうかいちん）が出土したことや、国道8号庄陸橋付近で古代瓦が採集されたことなどから、白鳳時代に建てられた寺院の存在が昭和32年（1957）に指摘され、津波倉廃寺と名づけられた。調査は、当廃寺推定域範囲にあたる。現在、A・B両地区の調査をほぼ終了した。

### (2) 調査成果

A区では奈良時代の掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）1棟と複数の大きな穴が切りあった土坑（どこう）を確認した。

B区では奈良時代の掘立柱建物12棟と土坑などを確認した。主に奈良時代の遺構であるが、一部に平安時代中期の土坑がある。遺物は7世紀後半から8世紀初頭の瓦片と8世紀中葉以降の土器などが出土した。

### (3) まとめ

多数の掘立柱建物は出土土器の年代から奈良時代と考えられ、出土した瓦の年代と

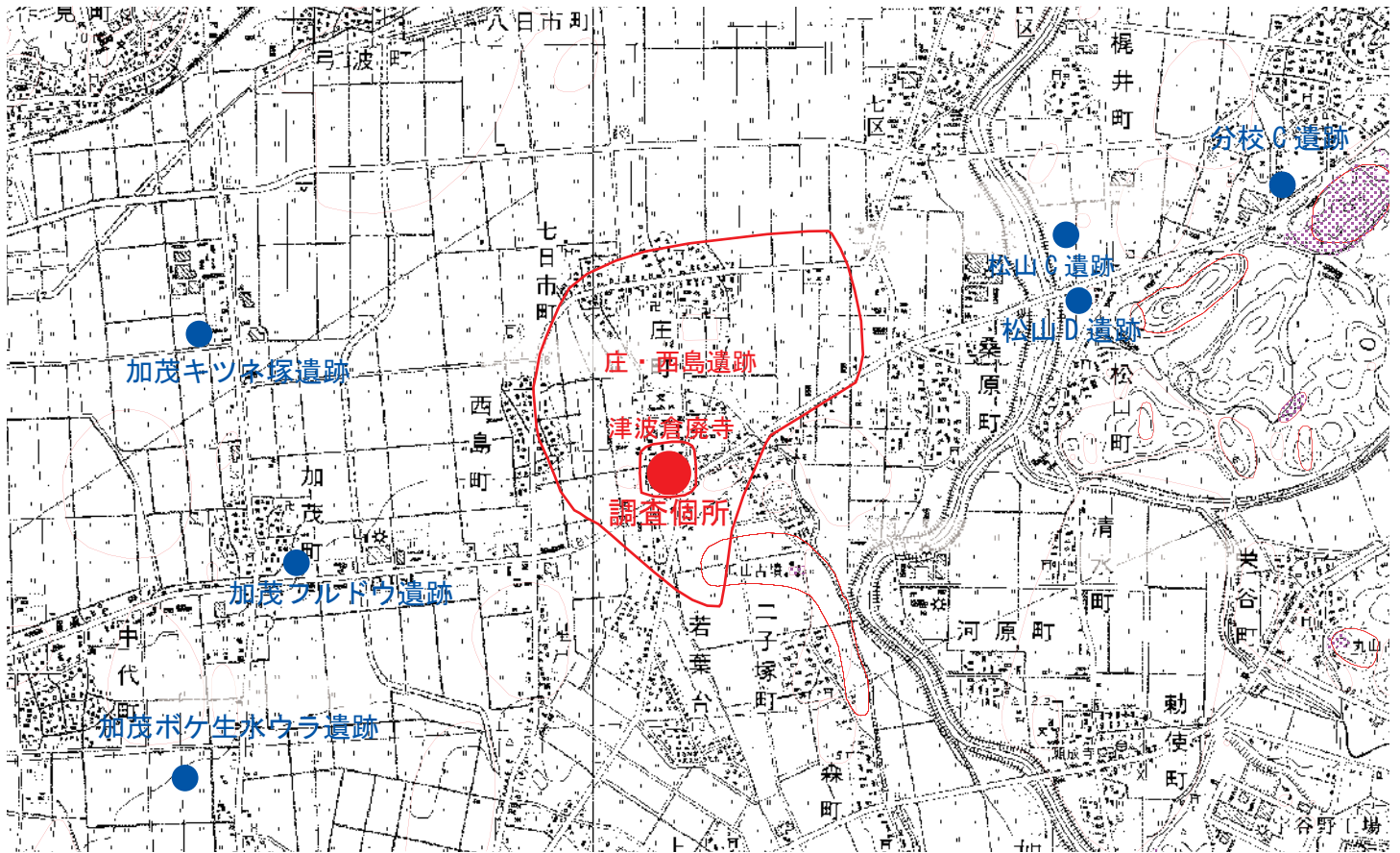
開きがある。また掘立柱建物の掘方は、60cm前後と小さく、瓦を葺く建物にしては小さい。これらは、検出した建物群にこの瓦が葺かれていた可能性は少ないことを示している。

したがって、検出した建物等が津波倉廃寺にかかる遺構である可能性は非常に少ないことがわかった。古代では、寺院や役所など限定された施設（郡衙（ぐんが）や駅（うまや）など）に瓦を葺いており、周辺にこれらの建物が存在した可能性が高い。

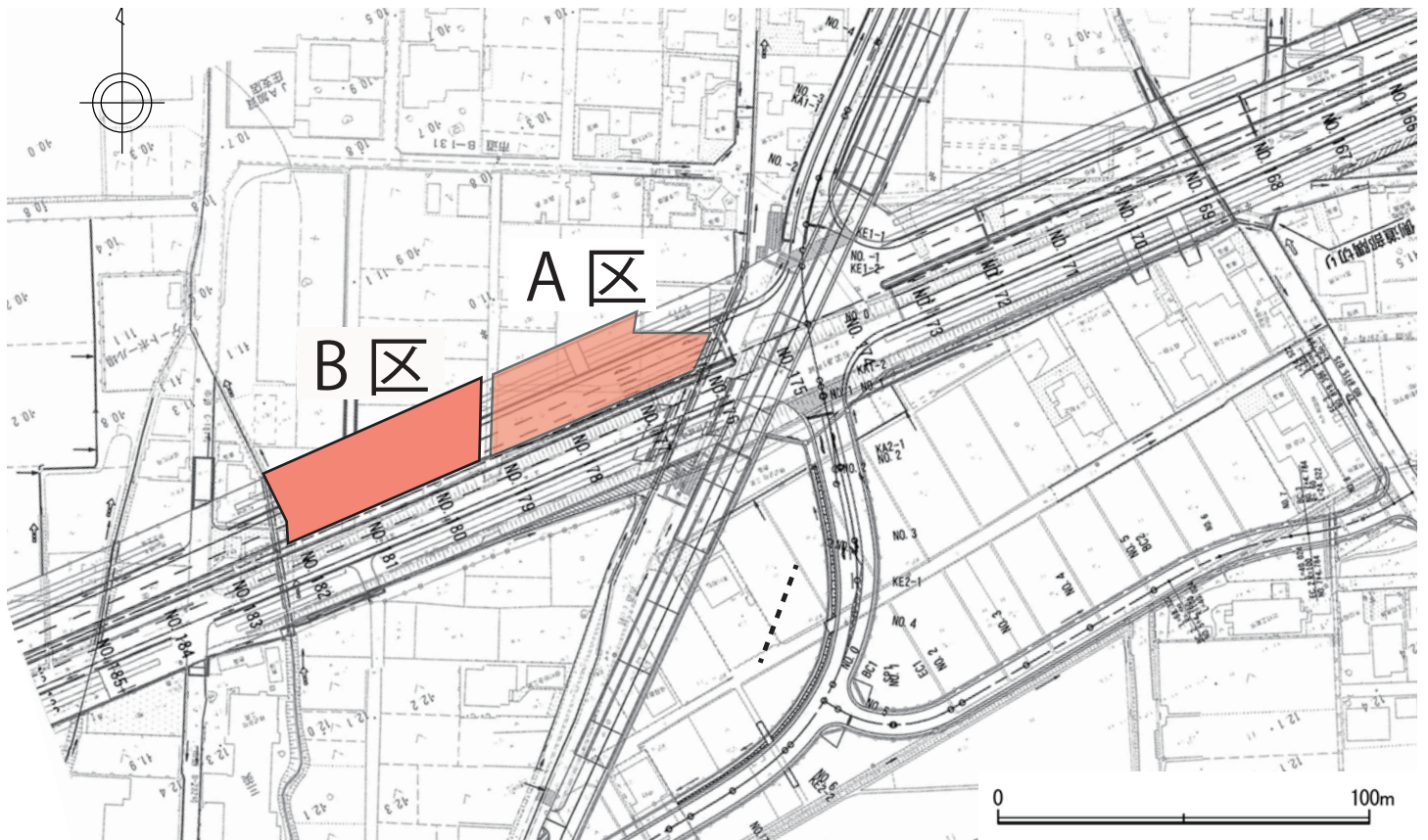
津波倉廃寺の存在は確認できなかったものの、寺が存在するとすれば、より南に展開するものと考えられる。

### 3 現地説明会

- (1) 日 時 平成27年9月13日（日） 午前9時30分から、  
および午前11時から  
2回行います。小雨実施
- (2) 場 所 加賀市庄・西島遺跡、津波倉廃寺発掘調査現場
- (3) 目 的 遺跡発掘調査の成果を公開する
- (4) 対 象 県民、考古学に関心のある方
- (5) 内 容 発掘調査の概要説明と出土品の公開
- (6) 主 催 石川県教育委員会・公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
- (7) 問合せ先 ○（公財）石川県埋蔵文化財センター 調査部 国関係調査グループ  
電話 076-229-4477（内線6540）  
○石川県教育委員会事務局文化財課 埋蔵文化財グループ  
電話 076-225-1842（内線5629）



庄・西島遺跡、津波倉廃寺と周辺の遺跡位置図 (S=1/25,000)



調査区割図

### 津波倉麿寺について

江沼平野のほぼ中央部に位置し、昭和 32 年に石田茂作などによって存在が指摘された白鳳期の古代寺院。「ヌカ塚麿寺」とも呼ばれている。

南加賀の古代史を考える上で重要であるにもかかわらず、現状では古代瓦の散布が知られるにとどまり、寺域や建物（伽藍）配置などの詳細は不明である。



位置 (『石川県遺跡地図』)

### 周辺の調査



- 寛政年間 西島地内の畠から和同開珎が出土（位置不詳）。
- 明治 30 年頃 西島地内の水田から和同開珎約 50 枚が出土（×地点）。
- 昭和 47～48 年（1972～73 年）  
県教委発掘調査。奈良～平安中期の掘立柱建物 4 棟などを検出。
- 昭和 48 年（1973 年）  
県教委発掘調査。奈良時代の鍛冶跡などを検出。
- 昭和 54 年（1979 年）  
市教委発掘調査。奈良～平安中期の掘立柱建物 4 棟などを検出。



B 区 見 取 図



A・B区全景（西から）



B区 掘立柱建物（南から）

# 庄・西島遺跡、津波倉廃寺の位置

